



カタッコの花が春風に揺れる里山をユンボで掘りすすめた。

事前に調べたら冬は雪崩が発生所だった。それを防ぐ方法として、炭焼き窯を山の斜面の中に入れ被害が少なくてすむよう考えた。



窯の床には、単管と木の枝、小石を敷き熱で発生する炭材の樹液を除く処置を施す。その上に鉄板を伏せ山土を敷いた。



窯の大きさ（4尺×6尺）と煙導、焚き口の位置関係を石灰で作図する。



内部の側面から石組みを開始する。石の大きさと形の方向性を見極めながら一段づつ組むので、熟練の技が必要だ。そして石組みが崩れず、隙き間から熱がもれないようにミキサーで練った土を叩き付けるよう隙き間を埋めていく。